2023 年度点検・評価シート

・**評価の視点**【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I 【現状】**原則 2023 年 5 月 1 日現在の状況で回答してください。**

対象部局	74 入学センター	責任者	堀川信一	
基準 5	学生の受け入れ		自己評価	A
★基準 5 の自己評価の理由を簡潔に解説してください。				
≪回答≫学生の受け入れ方針に基づき、入試を実施しており学生募集や入試の運営体制について適切と判断する。収容定員充足率は 1.04 と達成となったため、入学定員充足として A 評価の判定とした。				
点検・評価項目 (1)	**5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。**			
★<学生の受け入れ方針>（大学全体のものを記入してください。） ★<学生の受け入れ方針>（学部・学科、研究科のものを記入してください。） 学部・学科のアドミッション・ポリシー 1. 知識・技能 高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 外国語の 4 技能について、基礎的な技能が身に付いている。 2. 思考力・判断力・表現力 社会の多様な問題を多面的かつ批判的に考察し、自分の考えを論理的にまとめることができる。 主体的に課題を発見し、その解決に向けて自分の意見を主張できるとともに、他者の異なる意見に耳を傾け協働で取り組むことができる。 3. 主体的に学習に取り組む態度 志望する学科の学びに強い興味関心をもっている。 志望する学部学科の専門的な知識や技能を社会で活かしたいという目的意識をもっている。 正課のみならず、課外活動や留学、ボランティア活動に積極的にかかわろうとする意欲がある。 大学院研究科のアドミッション・ポリシー 専攻分野を学ぶために必要とされるであろう幅広い知識と、未開拓の領域や新しい状況に的確に対応していく基礎となる力（基礎的なリテラシーやジェネリックスキル）を習得している。 今までに習得した知識や技能を活用して批判的に考察・検討しようとすることに加えて、グローバルな視野で物事を考える力（空間的な広がり） 歴史的な視点で物事を考える力（時間的な広がり）・多元的な視点で物事を考える力（文化的な広がり）、それらを的確に表現する力を備えている。 国際社会や地域社会を担おうとする研究者・専門的指導者・専門的職業人として、品性や品格、豊かな情操と道徳心、健やかな心身を養おうとするだけでなく、多文化共生を実現しようとする意欲と真摯な姿勢を有している。			変更	有（） 無（○）
評価の視点 1 ※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ学生の受け入れ方針を設定し、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針			
◆学生の受け入れ方針の内容や公表の仕方について問題があれば記述してください。				
≪回答≫ 特になし。				
点検・評価項目 (2)	**5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。**			
評価の視点 1 ※	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に整備している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、B5-2 入学試験要項（一般、公募制推薦、自己推薦、社会人、編入学、科目等履修生、外国人留学生）、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4＊大東文			

	化大学入学者選抜試験規程、A3-11＊入学センター規程
評価の視点２※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報を提供している。 根拠資料→A5-13Web サイト HP(学費・奨学金制度)
評価の視点３※	全学として入学者選抜実施のための入学センター運営委員会を設置し、責任所在を明確にした運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11＊入学センター規程、B2-53 学内組織体制図（入学試験委員会等の位置づけが分かるもの）
評価の視点４※	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4＊大東文化大学入学者選抜試験規程

★項目 (2) 5-2①オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）

≪回答≫ 学部入試においてはオンラインによる入学者選抜に公正公平な実施の観点から課題も多く、オンラインによる入学者選抜は導入していない。一般選抜の一部方式（英語民間試験活用総合評価型入試）では、オンラインではなく事前課題等による書類選考型の入試を実施し、2024 年度入試も同様の予定である。 留学生特別選抜の渡日前入試（来日せずに行う入試方式）において、国際交流センターからの提案で 2023 年度入試より従来の書類選考から、オンライン選抜の実施を予定している。受験生と大学とをつないで行う形式ではなく、受験生は本学北京事務所・韓国事務所に出向いてもらい、大学とこれらの事務所を接続して行うことで不正入試の抑止に努め、公平な入試を行う準備を進めている。研究科入試においては以前オンラインで接続して行う北京入試を現地職員立ち合いで行っていたが志願者数の減少により現在は行っていない。	≪資料名≫ **74-B5-2：2023 大学入学募集要項（一般選抜）** **74-B5-2：2023 大学入学募集要項（外国人留学生）** **74-C5-1：【韓国職員向け】渡日前入試監督マニュアル**

評価の視点５	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。

★項目 (2) 5-2②公平な入学者選抜を実施するためどのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。

≪回答≫ 入試本部を組織し、入試本部のもとに入試実施本部のもとに実行小委員会を置き、入学試験の運営については、試験室の設営から当日の運営に至る詳細を定めた「入学試験実施要領」を策定し、関係者間で共有している。全国各地の試験地において本実施要領をもとに入試の運営に取り組むこととしており、入試の公平性を担保している。また、各試験会場で試験監督にあたる要員に対しては、「試験監督者マニュアル」を配付し、当日の説明、答案配付・改修方法、注意事項について定め、試験監督ごとに対応が異なることがないようにしている。 教授会での入試改革案審議各種入試の合否判定において、それらの内容を詳細に説明し、適正かつ公正な受け入れができるよう入学センターからも資料提供し、透明性を担保している。	≪資料名≫ **74-C5-2：2023 試験業務要領** **74-C5-3：2023 全学部統一入試試験監督マニュアル（完全委託会場用）**

★項目 (2) 5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の顧慮等）について、根拠資料を用いて回答してください。

≪回答≫ 留学生特別選抜の渡日前入試においては、受験生は本学北京事務所・韓国事務所に出向いてもらい、大学とこれらの事務所を接続して行うことで受験者の通信状況を顧慮し、公平な受験機会の確保に努めている。	≪資料名≫ **74-C5-4：2023【韓国】渡日前入試 zoom 情報**

◆学生募集及び入学者選抜について、問題点があれば記述してください。

≪回答≫
特になし。

点検・評価項目 (3)	**5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。**
評価の視点１※ **【基礎要件●】**	各学科および各専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。 注：定員管理の指針　入学定員に対する入学者数比率（5 年平均） 定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告) 上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告) 定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告) 根拠資料→大学基礎データ表２、表３、基礎要件確認シート 16

◆在籍学生数や収容定員について、問題点があれば記述してください。

≪回答≫ 学部在籍学生数のうち、恒常的な定員割れとなっている学科について、入学センターとして年内入試（特に指定校推薦）での定員充足の提案や、広報面での改善提案を行っている。研究科在籍学生数の未充足については、従前より改善策の検討を進めているが、大学院進学の動機付け、研究支援・キャリアパスの可視化をいかに広報するかなど様々な観点から議論を始めているところである	
点検・評価項目(4)	**5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**
評価の視点１※ **【評価要件○】**	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51　2023 年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）:（開催日）2023 年度自己点検・評価について
評価の視点２ **【評価要件○】**	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っている。
項目(4) 5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
≪回答≫ 学生の受け入れ、および入試制度や定員管理（在籍学生数等）について、入学センター運営委員会にて点検・評価を行っている。入試結果については入学センターで検証し、分析結果と今後の方針を大学評議会で報告している。入試制度改革や定員管理に関しても入学センターが最終的な方針・計画策定を行っている。特に定員管理のため、合格ライン策定について実情に即し対応を加速化に変更し、判定会議・学科会議等にも積極的に参加し意見を述べている。本学が分析ツールとして導入している㈱進研アド「学生確保マーケティングシステム（GMS）」では、全国の高校ランクを分類し、本学でもそのランクをもとに志願者の層について分析している。引き続き、「学力の三要素」を評価するための入試制度改革への対応、志願者確保に向けた入試広報戦略の推進、高大接続の充実などの取り組みに関する対応を検討中である。5 月 10 日入学センター運営委員会資料「2023 年度入試報告(総評)」P19 3-3「入試制度改革(学内)」・3-4「志願者増加、辞退者抑制の取り組み」にて入試制度改革への対応、志願者確保に向けた入試広報戦略の推進、高大接続の充実を提起している。	≪根拠資料≫ **74-C5-4: 2023 年度入試報告（総評）**

Ⅱ現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。
※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	学部一般選抜の定員管理のため、合格ライン策定について実情に即した対応を加速化し、判定会議・学科会議等にも積極的に参加し意見を述べている。毎年５月の学部長会議及び大学評議会にて大学執行部、学部長、学科主任、学部事務室事務長、大学評議会構成員に、入学センターより入試分析結果をもとに、入試の振り返りと意見交換を行い、次年度以降の入試の改善のための検証を行っている。

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。
※注：2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	学部在籍学生数のうち、恒常的な定員割れとなっている学科について、入学センターとして年内入試（特に指定校推薦）での定員充足の提案や、広報面での改善提案を行っている。研究科在籍学生数の未充足については、従前より改善策の検討を進めているが、大学院進学の動機付け、研究支援・キャリアパスの可視化をいかに広報するかなど様々な観点から議論を始めているところである。

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B票No. Or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2022-5Ⅲ-	一般選抜における AP の	「合格者へのポートフォリオ（活動報告）の入力」「一般選	出願者が「思考力、判断力、表現力」や「主体的に	A(100%)：全学科で実施 B(80%)：全学部で実施	2023：C 2024：B

		1(5-2)	能力測定方法の検討	抜（英語民間試験活用総合評価型入試）での課題論文」「『桐門の翼奨学金』申請時の将来目標等入力」のデータ蓄積を踏まえて、一般選抜における AP の能力測定方法の検討を進めていく。	学習に取り組む態度」に沿った能力要件を満たしているかどうかを確認しているか。	C(50%)：一部で実施 D(20%)：現状の方式を維持	2025：B 2026：B 2027：A 2028：A
②	2	2022-5Ⅲ-1(5-3)	入学定員の確保（定員割れの是正）	学部入学定員を安定的に確保するための体制づくり。 新課程である 2025 年度入試に向けた安定的な募集力強化のための入試改革を継続。	入学定員の確保（定員割れの是正） 入学者選抜・受け入れ体制の充実がなされているか。 学生募集力の強化と受け入れ層の多様化がはかれているか。	A(100%)：学部･大学院とも入学定員を確保 B(80%)：学部入学定員を確保 C(50%)：受け入れ層を多様化 D(20%)：現状と変化なし	2023：C 2024：B 2025：B 2026：B 2027：B 2028：A
④	3	2023	入学者選抜・受入体制の充実	設置校(大東一高)、近隣校を中心とした高大連携の取り組みの推進	大東一高との連携強化（評定基準だけでなく、大東スケールテストも導入）、近隣校へ高大連携の取り組みができているか。	A(100%)： 大東スケールテストでの一高推薦実施完了、近隣協力校に全学部で指定校を超えた協力校入試を実施。 B(80%)：大東一高推薦入試での大東スケールテスト本格導入・近隣校へ協力校として指定校を超えた取り組みを行う。 C(50%)：大東一高推薦入試にて大東スケールテストを導入・近隣校へ高大連携の取り組みをはかる。 D(20%)：現状の方式を維持	2023：C 2024：B 2025：B 2026：B 2027：B 2028：A
④	4	2023	学生募集力の強化と受け入れ層の多様化	18 才人口減少を見据えた学生募集力の強化(オンラインを利用した教育・研究内容の発信も含む)、外国人留学生・編入学生等受入層の多様化推進	18 才人口減少を見据えた学生募集力の強化の具体策をはかれるか。 外国人留学生・編入学生等受入層の多様化推薦の具体化ができているか。 大学院の広報活動の活性化がはかれるか。	A(100%)： 編入学指定校・外国人留学生指定校を全学科に置く。大学院の広報活動としてＷＥＢコンテンツ全研究科整備。日本語学校を 20 校以上訪問。 B(80%)：WEB 体験授業コンテンツを合計 100 本整備、編入学指定校に加え外国人留学生指定校を全学部に置く。大学院の広報活動としてＷＥＢコンテンツ整備を開始。日本語学校を 10 校以上訪問。 C(50%)：学生募集力強化のため全学科対象にＷＥＢ体験授業コンテンツを各３本以上整備。編入学での指定校を複数開拓。大学院の広報活動として日本語学校の訪問を開始。 D(20%)：学生募集力強化のため全学科対象にＷＥＢ体験授業コンテンツを複数整備。編入学での指定校を開拓。大学院の広報活動として年 2 回の説明会を実施。	2023：C 2024：B 2025：B 2026：B 2027：B 2028：A
④	5	2023	「質」と「量」を高	社会に評価され、ブランド力の向上を図る戦略的な広報展開	募集広報とブランド広報を同一コンセプトで訴求できているか。	A(100%)： 大東文化ブランドの向上 B(80%)：100 年目（+10）の新入学生に対して、統一的なプロモ･ション	2023：C 2024：B 2025：B

		(2021～継続)	める効果的な情報発信		大学の魅力をアピールし、受験生はもちろん、大学関係者（ＯＢ・ＯＧ，保護者等）の帰属意識の向上と共に、社会全般にブランディング浸透を図れているか。100年目（+10）の新入学生に対して、統一的なプロモ-ションを行うことで、早期に伝統と愛着、意識付けを行うことができるか。	を行うことで、早期に伝統と愛着、意識付けを行う。 C(50%)：大学の魅力をアピールし、受験生はもちろん、大学関係者（ＯＢ・ＯＧ，保護者等）の帰属意識の向上と共に、社会全般にブランディング浸透を図る。 D(20%)：募集広報とブランド広報を同一コンセプトで訴求	2026：B 2027：B 2028：A

V【内部質保証委員会による点検・評価】

2022年度＜所見＞

学生の受け入れ方針の設定と公表、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制の整備と公正な入学者選抜の実施に関しては、各方針のホームページ等への公表状況、各種規則とそれに基づく組織体制と運営状況、制度設計などにより、概ね適切に行われているものと評価する。特に、入試の性質上、透明性と公平性の観点から全学的なオンライン入試導入の適否を慎重に判断し、入学センター運営委員会を主体とする厳格な入学者選抜の実施体制を整えている点は高く評価できる。

適切な入学定員の設定と受け入れ及び在籍学生数と収容定員の適正管理、またその結果に対する改善・向上の取り組みに関しては、2022年度入試の結果（志願者前年度比86.7%、8学部中4学部が定員割れ）をふまえ、直ちに入学センター運営委員会で入試結果の分析による詳細な入試総括を行っている。専門業者による分析ツールも積極的に活用し、実際の取り組みや入試制度改革としても、高校指導教諭へのアプローチの促進や併願可能な総合選抜型の新設、「桐門の翼奨学金」の運用見直しを行うなど、適切な点検評価による改革への取り組みが行われていると評価できる。

Ⅱ「長所・特色」には「本学への志願者数は長期的に見て増加傾向にあり」との記述があるが、Ⅲ「問題点」では逆に、志願者状況は「5年連続の減少」と指摘されるなど、自己点検・評価の結果として矛盾が生じている。これは、全体の志願状況は減少しているが、中堅校から進学校の生徒が増加傾向にあり志願者の高校ランクが上昇しているという趣旨であろうか。

今後も年内入試の強化、国際交流センターとの連携、共通テスト利用者への制度改革など、さまざまな改革の布石が検討されており、引き続き、適正かつ安定的な定員確保につながるよう更なる改革を期待したい。

2023年度＜所見＞

学生の受け入れ方針の設定と公表、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制の整備と公正な入学者選抜の実施に関しては、各方針のホームページ等への公表状況、各種規則とそれに基づく組織体制と運営状況、制度設計などにより、概ね適切に行われていると評価できる。入試の性質上、透明性と公平性の観点から全学的なオンライン入試導入の適否を慎重に判断し、入学センター運営委員会を主体とする厳格な入学者選抜の実施体制を整えている点は高く評価できる。本学では、学部一般選抜の定員管理のため、合格ライン策定について実情に即した対応を加速化し、判定会議・学科会議等にも積極的に参加して意見を述べている。毎年5月の学部長会議及び大学評議会にて大学執行部、学部長、学科主任、学部事務室事務長、大学評議会構成員に対し、入学センターより入試分析結果を基にした入試の振り返りと意見交換を行い、次年度以降の入試改善のための検証を行っている事は評価できる。

適切な入学定員の設定と各種入試ごとの定員の設定、受け入れ及び在籍学生数と収容定員の適正管理、またその結果に対する改善・向上の取り組みに関しては、2022年度入試の結果（志願者前年度比86.7%、8学部中4学部が定員割れ）を重く見て、直ちに入学センター運営委員会で入試結果の分析による詳細な入試総括を行っている事も評価できる。学部在籍学生数のうち、恒常的な定員割れとなっている学科については、入学センターとして年内入試（特に指定校推薦）での定員充足の提案や、広報面での改善提案を行っている事は評価できる。その際、専門業者による分析ツールも積極的に活用し、高大連携の強化も行っている。また入学時の「合格者へのポートフォリオ（活動報告）の入力」「一般選抜（英語民間試験活用総合評価型入試）での課題論文」「『桐門の翼奨学金』申請時の将来目標等の入力」に関するデータの蓄積を踏まえて、さらに一般選抜におけるAPの能力測定方法の検討を進めるなど、適切な点検評価による改革への取り組みが行われていることは評価できる。大学院の研究科在籍学生数の未充足については改善策の検討を進めており、大学院進学の動機付け、研究支援・キャリアパスの可視化をいかに広報するかなど様々な観点から議論を始めているようである。事業計画としても、学部の入試選抜、定員管理、広報活動などのアクションプランを設定し、それに合わせて大学院の広報活動について具体的なアクションプランを設定しており、評価できる。今後、計画が進捗することを期待する。

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 （評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 （評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

＜注＞「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。
解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準５学生の受け入れ

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。